

普及の総合力を生かした「種子島安納いも」の産地育成 ～ブランド化の思いをたすきで繋ぐ普及活動～

所属名：熊毛支庁農政普及課
発表者名：下古立 正美

<活動事例の要旨>

平成20年に安納いものブームが起り、種子島では生産量が急激に拡大した一方、品質のばらつきが課題となった。高品質な安納いもを生産・出荷するため、関係者が一体となり、安納いもブランド推進本部を設立し、同推進本部を中心に①品質統一基準による出荷体制の確立②優良種苗を用いた生産体制③安心・安全の取組④安納いもの加工品開発にこれまでの普及活動で取り組んできた。平成29年度からは GI を取得して更なるブランド化と、種子島独自のバイオ苗増殖技術の実証・普及に取り組んだ。また、次代を担う安納いもを基幹品目とした新規就農者の定着に向けた活動を充実・強化し、普及の総合力を生かした産地育成に取り組んだ。

1 計画された活動の課題・目標と策定過程

(1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

ア 安納いものブランド化

安納いものブランド化を図るため、地理的表示保護（GI）制度による「種子島安納いも」の登録を目指すこととした。併せて産地の課題・目標を関係者で共有し、一体となった取組を促進するため「種子島安納いも産地ビジョン」の策定を提案。

イ 優良種苗の拡大による生産・品質の安定

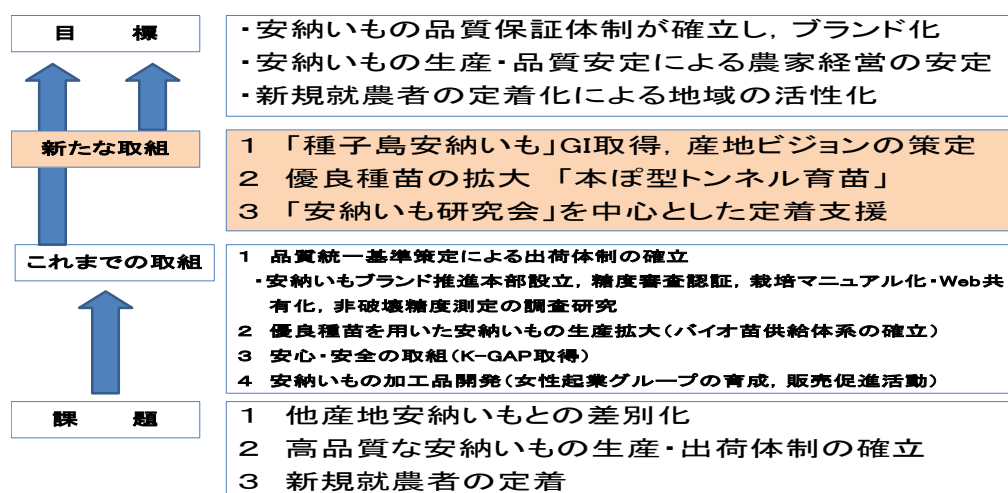
【1年目：調査研究、2～3年目：実証ほ設置】

バイオ苗の当代利用率を高め、生産・品質の安定を図るため、種子島独自の育苗法である「本ぼ型トンネル育苗」の実証ほを設置し、安納いもの収量、品質等を調査し、普及性を検討。

ウ 新規就農者の定着促進

安納いもの新規就農者に対する支援体制をさらに充実し、定着を促進するため、「安納いも研究会」を組織し、指導農業士や関係機関と連携し、研修会やほ場巡回指導等を行い個々に応じた技術向上を支援。

(2) 計画の策定過程



2 普及活動の内容

(1) 活動の経過

ア 安納いものブランド化

- (ア) GI 検討委員会，作業部会を組織し，検討，合意形成等を図った。
- (イ) 産地の理念，10年後を目標とした「種子島安納いも産地ビジョン」を策定した。
- イ 優良種苗の利用拡大による生産・品質の安定
 - 本ぼ型トンネル育苗の実証ほを設置し，調査結果を取りまとめ，普及性が確認された。「本ぼ型トンネル育苗の手引き」を作成・配布した。
- ウ 新規就農者の定着促進
 - (ア) これまでの支援体制をさらに充実させるため，「安納いも研究会」を組織した。
 - (イ) 専門的な研修会，技術・経営の課題解決，カウンセリングや巡回指導を行った。
- (2) 指導・支援の体制
 - ・(一社) 安納いもブランド推進本部（生産販売，加工観光）を連携対象
 - ・関係機関，指導農業士，普及協力員，県農開C等と連携し，会員に支援を実施

3 普及活動の成果

- (1) 課題及び目標の達成状況とその要因
 - ア 安納いものブランド化
 - (ア) さらなるブランド化に向け産地体制が強化され，GI 取得後の活動展開を検討している。
 - (イ) 「種子島安納いも産地ビジョン」策定により産地の理念が明確化され，目標に向け具体的な取り組みを始めた。
 - イ 優良種苗の拡大による生産・品質の安定
 - 現地研修や手引きの配布等により，本ぼ型トンネル育苗に対する理解が深まり，取り組む生産者も見られるようになった。
 - ウ 新規就農者の定着促進
 - (ア) 新規就農者支援体制の充実・強化により新規就農者の資質向上，周りの生産者への波及効果が見られた。
 - (イ) 課題解決への意欲が高まり，2名を青年農業士（候補）へ誘導できた。
- (2) 活動に対する生産者・農家の評価
 - 「産地ビジョンにより目標が明らかになった。」
 - 「本ぼ型トンネル育苗のデータがはっきり出て良かった。」
 - 「研修会の内容は専門的で難しいが，知っておきたい内容，レベルは下げてほしくない。」
- (3) 地域農業振興への貢献
 - 安納いもは耕種部門でさとうきびに次ぐ基幹作物であり，ブランド化されることで生産・販売，加工・観光など地域産業への貢献が期待できる。

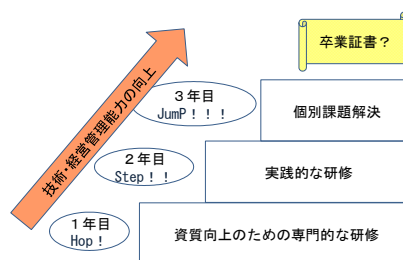
種子島安納いも産地ビジョン

【産地の理念】
 私たちは宇宙につながる雄大な空，果てしなく広がる碧い海，緑豊かな大地に囲まれた種子島の大自然の中で，美味しい安納いもを安定的に生産することに生きがいと喜びを感じ，安納いもの生産を通じ，種子島の発展に寄与していきます。
 種子島安納いもを国内はもとより，世界中の多くの皆様に食べていただくためのPR活動を行い，日々生産技術の研鑽に努め，品質と農家経営の安定を図ります。

安心安全で信頼できる品質
 納得の甘さとねっとりとした食感
 いつも変わらない美味しさ
 もっとこれからもずっと届けます



研究会の段階的な支援イメージ（3年計画）



4 今後の普及活動に向けて

- (1) 今後の課題
 - ア 産地ビジョンの実践
 - イ 新たな病害虫への対応
 - ウ 販売拡大（輸出・加工業務用）
 - エ スマート農業の導入
- (2) 今後の活用に向けて
 - 種子島安納いも産地ビジョンを着実に実践し，新たな取組により農家経営の安定と地域の活性化を目指す。